薬連ハイライト

「本田あきこ」全国支部訪問活動報告

日本薬剤師連盟の役員による全国支部訪問が終了しました。この訪問は，本田あきこ先生の名前を広く周知し，支援の拡大を図るために工夫を凝らしたものです。各支部は独自のアイディアと戦術を駆使して，本田あきこ先生の名前と活動を多くの人々に知らせるよう努力をしました。訪問件数は薬局3,399件，事業所245件，集会開催数は149回でした。今後は，都道府県の役員が中心となり，来年の６月までに全国の全薬局を対象とした支部訪問を実施することが決定しています。この訪問は，支部ごとの取り組みをさらに強化し，本田あきこ先生への支援を一層広めるための重要なステップとなります。都道府県の役員は，各薬局とのコミュニケーションを深め，本田あきこ先生の活動内容や理念を詳細に伝えることを目指しています。これにより，地域ごとの支援体制を強化し，本田あきこ先生の支援活動が全国的に広がることが期待されます。支部訪問を通じて得られる取組事例のフィードバックも，今後の活動において貴重な参考となるでしょう。

オレンジ日記

来年度予算の確保に向けて

参議院議員・薬剤師
本田 顕子

８月30日，来年度予算の概算要求書が財務省に提出されました。

今回は国民に最先端の医薬品・医療機器を迅速に届ける観点での取組に重点が置かれ，文部科学省および厚生労働省の概算要求の中には創薬力強化やドラッグラグ・ドラッグロス解消に向けた研究開発支援や人材育成などかなりの数の新規・増額要求が含まれています。

また，厚生労働省は創薬力強化と共に「安定供給」を一丁目一番地に位置づけて，供給情報の迅速な共有や品質確保のための取組のほか，抗菌薬の備蓄や海外依存度の高い原薬の確保に取り組む企業への支援策などを新規に要求しています。

薬剤師関連では，電子処方箋の全国的普及拡大と導入済み薬局での利用促進・システム改善が新規要求となり，電子版お薬手帳の普及拡大も継続します。そして，いわゆる「骨太の方針2024」を踏まえた調剤録等の薬局情報のDX・標準化については，薬局機能の高度化を図る一環として調査・検討を進めるための増額要求につながりました。

そのほか離島・へき地等での薬剤提供，薬局・病院薬剤師の確保支援などを推進するとともに，地域医療介護総合確保基金については国と地方あわせて1,029億円の要求となっています。

今後，年末の予算編成に向けて要求内容の必要性や予算規模などについて政府内での協議・調整が進められますので，薬価中間年改定の取扱いを含めしっかりと議論を重ねてまいります。引き続きのご指導・ご助言をお願いいたします。

政幸だより

輸液製造工場を視察しました

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸

令和６年７月17日，（株）大塚製薬工場様の輸液製造工場を視察させていただきました。輸液製剤は「医薬品産業ビジョン2021」においてベーシックドラッグに定義されており，生命の安全確保に直結する医薬品です。輸液は昨今の原材料やエネルギー価格の上昇によって，大きな影響を受けている医薬品の一つでもあります。

今回の視察の印象として，一番に工場の設備の大きさに驚きました。安全な無菌製剤を医療現場に届けるため，緻密かつ責任の重い仕事に従事されているスタッフの皆様に，改めて敬意を表したいと思います。工場では各種データを従来の手書きから，自動的に記録できる方法にシステム変更するなど，信頼性向上のための投資も積極的に行っておられました。製造された輸液製剤は，東京と大阪の近くに新設した巨大な物流倉庫に数ヵ月分が備蓄されていると伺いました。災害発生時にも十分対応できるよう，輸液製剤の安定供給に努めておられる姿勢に感銘を受けました。

今回の視察で原材料やエネルギー価格の上昇以外にも，輸液製剤が採算を取りにくい点を理解することができました。大きな設備で無菌的に製造するためには高額な投資が必要であり，高コスト構造となります。輸液製剤は大容量の製剤であることから，製造所や倉庫も大規模な設備が必要で，輸送にもコストがかかります。品質確保のため将来的にも継続した設備更新が必須であり，無菌性を保つためには，滅菌工程の設備等の疲労やダメージに対応する必要もあります。

感染症の流行や地震・噴火などの突発的な有事に対して，被害を最小限に抑えることは我が国にとって戦略的に重要です。輸液製剤は救命・救急医療に必要不可欠な医薬品であることを改めて認識し，生命に直結する安定確保が必要な医薬品の供給問題に，しっかりと対応して参ります。